大正九年二月一日發行　大正九年一月二十八日印刷納本　（毎月一回一日發行）　明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

第十七巻　二月號

目次

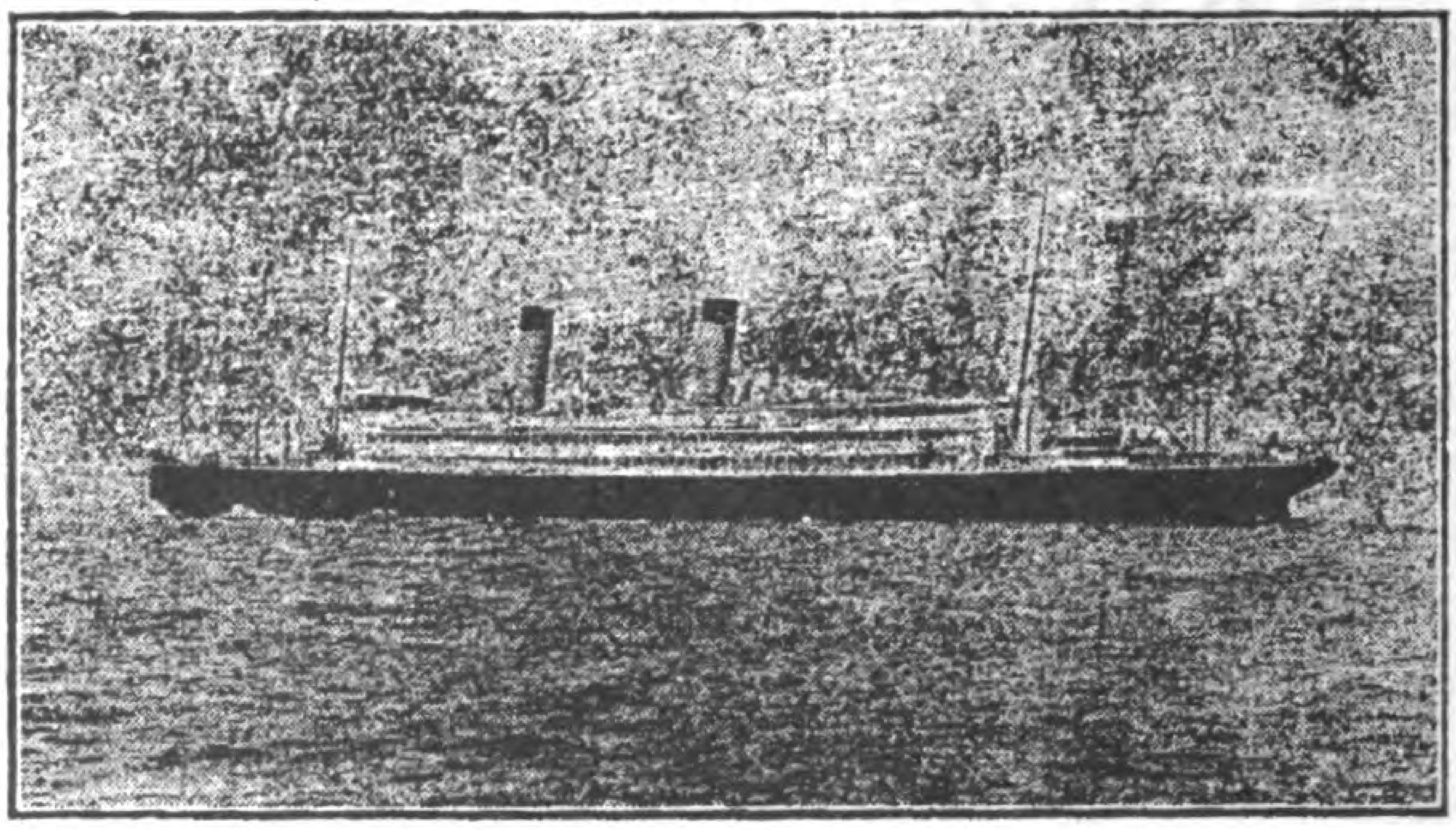

梅が香の
優雅なるを愛で
給ふ御婦人方は
ライオン歯磨の
清く優しき香を愛で給ふ
美しき歯！
愛らしき微笑！

第十七卷　第二號

女子青年界目次

大正九年二月號

東洋汽船株式會社



本社　東京市麹町區永樂町一丁目一番地（電話本局四〇八〇、四〇八一番 四九六一、一五三一番）

營業所　横濱市山下町五番（電話四四〇〇、四四〇一 四四〇二、四四〇三番 四四〇四）

出張所　神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング 上海四川路ノース、チャイナ、インシュランス、ビルヂング、マニラ、チャコビルヂング、桑港、マーケット街六二五、マーチャンツ、ナショナル、バンクビルヂング、ホノルル、アレキサンダー、ビルデング

北米航路（桑港、布哇、横濱、神戸、長崎 上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穏なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
日本丸	同	同	一一、〇〇〇噸
波斯丸	同	同	九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、ホノルル、桑港 羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、七〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
静洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

女子青年界

第十七巻第二號

二月號

大正九年二月一日發行

祈の歌

かなしむべきかないのるにときなく
　むなしくすぎゆくよのひと
おもにをおろしてしばしのあひだは
　いのるべきときのあらずや
いのりにまされるよろこびもてりや
　いのらでこゝろのやすきか
いのりはみかみとひととのかたらふ
　たゞ〴〵ひとつのみちなり
まごころつくしてたえずいのれよ
　いのりはいのちのもとなり

（讃美歌第二篇一四七）

會說

學生の連鎖

河井道子

近頃新聞などで特に學生の注意を惹く問題は、帝大助教授森戸辰男氏の筆禍事件でありませう。事の眞想は別として、男女學生とも眞面目に公平な立場から、宗教界思想界の事を考へさせられる好材料であります。又佛教大學の學生が中心で、救世軍を攻擊し、或は基督教撲滅等の示威的運動を時々企てた事等も、私共の注意を促す事柄であります。何れの會合でも思想問題に觸れた集會であれば、大多數は學生の色彩をおびて居ります。

女子の學生はまだそれ迄に及びませんでも、慥に從來と異つた運動に心を傾けつゝある事は爭はれません。婦人新報社が主張で女子の高等教育に關する請願を帝國議會に差出さんとして全國に請願人を募集して居りますのや、又各地女學校の同窓會が聯合して、生活改善の研究及び陋習打破の運動をなさんとして居るなどは最近の事であります。每日の新聞に婦人問題に關する記事の掲載が斷れる事はありません。之等は直接間接に、學校をいで、或は今在學中の婦女子達に關聯して居ります。斯く數へ來れば限りなく男女學生の問題が湧出して參ります。何といふても將來各方面に於て勢力を持つものは、今日の學生々涯をしたものでありませう。此有爲なる又大切なる團體をして、今日より世界平和、人道主義を乞ひ願ふ如き精神をもたしめる事が出來るものな

らば、最早や次の時代には其平和が實現せずには居られません。其時は一視同仁の主義が容易に實行される事でありませう。

之が爲めにはどうしても御互に相愛する心懸をもつの他道がありません、相愛するとは、好意を以て他の成功を喜び、他の短所を補ふ事であります。そして眞の謙遜を以て心を廣くし、人を已にまされりとなし、是を是とし、非を非とするに躊躇せざる心懸であります。

過日支那基督教女子青年會本部から一通の來書がありました。曰く「國際間に如何なる問題が起ろうとも、我等基督教信徒たるものは相提携し、助け合ふ事を怠るべきにあらず、國家多端の際、いよ〱祈の連鎖によつて、貴國女子青年會と親交をまさん事を願ふ。我等は平素諸國の爲、祈の題目を設けつゝあるが故に、貴國の爲にも祈らんと思ふ、依つて祈の項目を送られ度し。尚又我等の國をも憶へ御加禱あらん事を願ふ」と。今日支問題云々といふて、断えず權利爭ひ利益問題に、相敵視して居ります間に、斯くの如き手紙の支那から來る處は、基督教界を措て他に何處にありませうか。

朝鮮事件は鎮止して居りますか、ほのかに聞けば斯地の女子學生等にして入牢する者の數は增加するとの事であります。然し幸に齋藤總督は寛大な處置を彼等に施すといふ事が新聞に見えますが、兩國の親睦は殆ど不可能のやうな狀態であります。然るに舊臘或二人の朝鮮留學生が日本人と共に祈會に於て心を併せ、兩國の爲め祈つた其祈のうるはしい事は私の腦裡から消す事が出來ません。

如何に基督教が誤解され非難されて居るとは云へ眞個の友誼といふものは、基督に於て結ばれるのでなければ、不可能である事は種々の方面に立證されて居ります。今より十年程前、獨逸の中央部、黒林の入口に於て、露西亞の女學生と共に靜な木蔭にひれ伏して祈つた經驗を一生忘るゝ事が出來ません、丁度日露戰爭後間もなき當時でありましたが、

それらの事は意中になく、御互に兩國のため、學生のため祈つた美はしい經驗を思ひ出さずには居られないのであります。

斯く私共を一致せしむるのは、教育或は習慣、文明の程度によりません、基督の幹につらなつて居るといふそれによつて眞の一致和合が出來ます。

毎年二月は、萬國基督教學生同盟會祈禱日になつて居ります。祈の題目は別項に記載いたしました。

祈禱は、古より人智を以ては不可解のものとされて居ります、故に萬事を科學的に解釋せんとする人々は、祈禱を迷信として退けますが、近代の心理學者は、科學的にも此不可思議なる祈禱の能力を認め世が進むに從ひ、此能力は鮮になるであろうといふのが一般の説であります。

太靈道といふ一種の精神治療が、屢々此頃の廣告に出て居ります。之等も科學以外に動力があり其が日常の動作にも關係して居るといふ事を、誇張して廣告されたもの、やうに思はれます。

とにかく我等基督教徒は、主耶蘇より祈るべき事を教へられ、それが基督教の生命となつて居ります數々祈るべき事の多い中に、私共が學生を畫して祈るだけでも、其範圍は大きなものであります。例へば、支那の騷擾の原動力は學生ではありませんか、朝鮮でも同樣であります。歐米の大學は戰爭の爲め殆ど學生がなくなつて終つた處もあります。日本の今日、學生の勢力は政治勞働道德文學、總ての方面に夥しいものであります。外國にある日本の留學生の評判は如何でせう、最近の歸朝者の言によれば、米國にある一般の日本留學生の能力と品性とは、支那學生に比して劣つて居るといふ事であります。日本に來て居る何千人の支那留學生、又朝鮮、臺灣の學生を、如何に日本人が取扱つて居りますか。日本から支那に歸つた學生が排日の首領といふのは何の原因でありませうか。物價騰貴につれ一方に廢學する學生があるのに、他方には贅澤際限のない學生も殖えて參ります。物質に於て、思想に於て偕に混亂し

た時此を誰が統御し、指導する事が出來ませう。

斯ういふ有様ですから、一旦信者になつた女學生中にも煙に巻き込まれ、信仰を捨て、動揺した思想界に加入するを以て進歩のやうに思ひ、友人等の信仰を舊式とて侮蔑します。之等の學生を敎へて信仰を正す先生が幾人ありませう、自由といふ名の下に放恣な思想や行動を陰陽に默許して居る信者の先生達も少くありません。

如何に世が變り、思想が顚倒しませうとも、大盤石なる基督を根據として、彼の敎へ給ひし思想、理想に向つて進まうとすれば祈禱の修養を以て行くのが第一であります。

諸學校、諸團體は祈禱日を種々の方法で守られる事でせう。然し形式に流れ易いのも亦祈禱日であります、願はくば、今年の祈禱日が眞に意義あるものとして、目的を定めて祈られん事であります。手近い事を云へば、自分の同窓中、外國に留學して居るもの、爲に祈ると共に手紙を出す、病床の友人を見舞ふ、忠告すべき友人に祈りつゝ忠告する和睦すべきもの、赦罪すべき友人にも此日に於て和合する、懺悔をする、獻金をする、我國敎育指導者のため、文部省のため特に祈る等は其容易に出來る事柄であります、東京に於ては當日青年會館に於て午後二時から男女信徒學生、支那、朝鮮、印度、其他凡ての留學生皆一堂に集り主の前に祈る計畫であります。假令學生にあらずとも、自分の骨肉中に學生を持たぬ人がありましようか。兄なり弟なり或は姉妹或は子女が在學中でありましよう。彼等及び其友人達のため、神に救を求め下され、誘惑にかち正義の人となり得るやう、是非とも此日は御家庭に於ても敎會に於ても祈らるゝ事御願ひ申上げます。

人類が神より與へられたる最高最善の賜物は祈禱の能力なり。

萬國學生祈禱日趣意書

歐洲の諸大學の歷史的な尖塔、や講堂が、煉瓦造の衞生的な建物にかはつたと云ふのでもない。然し乍ら、新舊いづれの大學に於ても靜寂なる教室内に、巷の喧しき聲が、押し寄せて居る、その討論するところは、或は産業問題、或は人種問題、或は國際的平和の基礎などの問題に集注されて居る。今日の學生、その多數は昨日の軍人である。史學、哲學の研究に彼等の戰場より携へ歸つたものは、今や編れんとして居る歷史の體驗であり、建設せられたる人生哲學である。しかも砲彈雨飛の中に苦痛を以て贏ち得たものである。

萬國學生基督教青年會同盟役員の冀ふ所は萬國の基督信徒が神の前に、世界各國の諸大學、專門學校に於て、現代の要求を理解し、その要求に應じて奉仕せんが爲めに準備中なる男女の學生を記憶せられんことである。

かゝる理解は非常に必要であつて同情と公平とを以て攻究することによつて初めて得らるゝものである。而してそれは學生獨特の事業である。今日世界は理想主義に滿ちて居る、しかし理想家の追求するところ必ずしも相一致して居ない。實際政界の現情に見るも危惧不安、猜疑の念は、進取的希望と同情の精神を破壞し勝ちであるが、世界は共通の福祉を基礎とする、共通の思想を切實に要求して居る。この思想こそ各國民がその上に鞏固なる方策を樹立すべき眞に「民衆の意志」と云ふべきである。

本同盟の存立する所以はこの共通の福祉を基礎とする共通精神の作興を助けんが爲めである。吾等は各國の學生を糾合して、相互の意見を交換し、自國以外の諸外國にある特種の傾向、憧憬のある所を諒

解するに力めんとしてゐる。斯る了解は互に親睦をはかり友誼を篤うすることによつて得らるゝものである。例へば在米外國留學生と、米國大學生との關係の如きその一つである。本年夏期には、今より廿五年前、本同盟が生れ出た瑞典に於て、大戰後第一回の委員會を開くことゝなり、各國の學生を招待せんことを特に計畫して居る。

世界の各國から學生を集めて談論、事業、遊戯を共にするを助けるより以上遙かに重要な本同盟の事業は神の愛と神が萬人の父たることを更に深く諒解せしむるに努むることである。人がキリストの精神に入ることが出來なければ、各人の間に眞に共通の精神を見出すことは出來ない。この精神さへあれば危惧不安、爭論、競爭の擴まることはないのである。國家、階級、國民性の如何を問はず、神に近づくことによつて人は神の國の姿を見、その建設の確實なる希望を懷くことが出來る。「われらはなんぢの光によりて光を見ん」神がその民の眼を明かにし、その手を强め給ふ力あることを信じて本同盟は一九二〇年二月廿九日の萬國學生祈禱日趣意書を送る次第である。

萬國學生基督教青年會同盟

委員長　カール、フリース

総主事　ジョン、アール、モット

女子部巡回主事　ミス、ルース、ラウス

感謝の項目

一、「信仰もて世とたゝかひてかちし聖徒のために」（讃美歌第二編二二六參照（大戰中に世を去つた、ロシアのニコライ男爵、フランスのシアール、グロウス氏、ドイツのリヒアールト、ラウ氏及びルーイス、ロバート氏其他學生青年の有名なる指導者であつて戰死した多數の人々の爲め、榮を神に歸して。

二、破壞されなかつた本同盟の爲め。（大戰亂の爲め他に幾多の國際的關係が斷たれたにも拘はらず、又戰後尙各國間に競爭的野心、偏見、怨恨の念がある

にも拘はらず、本同盟はキリストの力によつて、其の團結を保つことが出來、今や再び友誼的關係を結び度いと冀つて居るのである。）

三、陸海軍の服役から歸還した學生が本同盟を深く心にとめて居る心に對して。

四、戰爭に參加しなかつた國々の學生青年會が、或は分離し又は疎隔された者の爲めに諒解を圖り、感情を和げ、協同の事業を計るに努めた友誼的努力に對して。

五、戰前微々たる端緒を見るに過ぎなかつた、チエック、スロヴアキア、ポーランド、獨領オーストリア、セルビア、ブルガリア、ロシアに於て學生青年會事業の復興したる爲めに。

祈禱の題目

一、本同盟創立二十五年を記念するため本年七月三十日より八月七日まで瑞典に於て開かるゝ大會の爲め、各國青年會が瑞典青年會同盟より發した招待に應じ得ることとの出來るため。且又力に滿ちた協同の集會とするに、妨げとなる、凡ての障碍物の除かれんがため。

二、戰場に相見えた諸國民間の關係を融和して、再び交際を始める爲めに開く、諸會合、會見其他の努力に對して。双方胸襟を開き進んでキリストの命じ給ふた眞理と、懺悔と愛の精神とを受け容れることのために。

三、本同盟の役員、各國青年會の凡ての指導者が、至難の事業に從事して居るのに對して、神の指導の加はらんが爲めに。

四、學生間に基督を傳へる爲めに始められた凡の新事業、並に開拓者としてこの爲めに働いて居る人々のために。

五、去る十二月卅一日より本年一月四日に亘つて北米合衆國に於て開かれた北米學生義勇團大會に集れる六千名の學生、敎授のため、彼等が志望せる新天新地の實現に忠ならんがため、又彼等がキリストの

世界的經綸に獻ずるに至らんがために。

六、外國留學生のため。又他國に向つて移住する青年學生に對して本同盟が其使命を果し得るために。

七、言論、文章を以て青年學生の理想、行動に感化を及ぼさんとする人々のため、彼等が時代の使命を自覺して、眞實、勇氣、勢力を以てその思想を發表し得んがために。

萬國學生祈禱日に就て

平和克復後に於ける、萬國祈禱日を迎ふるに際して、我等は此祈禱日を眞に意義あるものたらしむべく、全國の基督教男女學生青年の團體が特に教會内外の諸團體と協力し、充分なる準備を以て以上萬國學生基督教青年會同盟より送り來れる趣意書に附加して左の條項をも祈禱の題目となし、我國に神の國の建設せられんことを祈ると共に當日は特に學生青年會主催の下に傳道說教、講演會等を開き學生間に福音を宣傳せられんことを切望す。

一、我國諸學校内に於ける朝鮮臺灣中華民國印度其他凡の留學生と親善融和のために、

二、海外にある我國留學生のために、

三、學生青年會事業の益々盛ならんために。

四、青年學生の間より獻身して直接基督のために働く者の起り來らんために。

四、我國に於ける基督の名の下に行はるゝ凡ての事業と其指導者のために。

日本基督教女子青年會幹事　河井道子

日本基督教青年會同盟主事　齋藤惣一

日本基督教青年會同盟委員長　井深梶之助

祈禱斷片

森田松榮

一

祈禱に就て私が最も體得したいと願つてゐながらなか〳〵到達し得ない事が二つある。

昔一人の老婆が連如上人の所へ來て、「私は糸を繰り乍ら念佛を唱へて居りまする」と云つたところが、上人は答へて「いや〳〵糸を繰り乍ら念佛を唱へるのではいかぬ。念佛を唱へながら糸を繰りなさい」と申されたといふ。實に至言である。行住坐臥歡喜に悲哀に、あらゆる場合に祈禱が基調をなしてゐる生活、聖パウロの「絶えず祈る」生活である。ファアも同樣のことを云つてゐる。

「精神生活と世俗生活との相違は祈禱から來る。恩寵が人を祈禱へ追ひやり、祈禱に捕へしむる時、祈禱は彼を新らしい人即ち絶えず祈る人とならしめる彼の生活其物が一つの絶へざる祈禱となる。

彼の生活は祈禱の形式にはさう係づらはずに、彼の心の態度によるので、其所から出るあらゆる行爲は生きた祈禱となるのである。」

今一つは昨年一寸日本へ來られた傳道者で、私の心に消えない印象を彫まれた印度人シング師から直接きいた言葉である。

「私達の祈禱は貰ふこと許り强請るのであつてはならない。それは乞食のする事だ父と子とは默々として相對してゐて、親しい密な交をする。神は我等の父で在す、乞食のやうにせず、子のやうにせよ。」

二

祈禱に就て私が忘れる事の出來ない人が三人ある一人は私の洗禮の教母である。私が求道者であつて魂の探し求めるものにピタリと出會ふことが出來ず祈れと云はれても祈の對象がなくつて苦しんでゐた。或日、其頃其人とはまだ友人でもなかつたが、

「あなたの爲めに毎日祈つてゐます」と云はれた時、自分は急には返事が出來ないまでに感動した。たつた一言ではあつたが、いはゞ坂の途中で、もがきあがいてゐる私の魂をうんと一押し大きな力で押されたやうな氣がした、今日迄私にはどの友人からでも一番尊い賜物は祈禱である。自分が強い感銘をうけたせいか又私の祈禱の生活の極めて貧弱なせいか、私は人に向つて「あなたの爲に祈ります」とか「私の爲にお祈り下さい」とかいふ言葉がなか〱出なくて困る。勿論かういふ言葉を輕卒に亂用する事は厭はしいよりも恐ろしいことである。然し私は恩寵により祈禱の生活に入る事が出來るやうに、そして一人の魂にでも眞に祈禱の助力が出來るやうになりたいと希つてゐる。

今一人は私の敎母の紹介で讀むで、傳記の上でのみ知てゐるフオーブス、ロビンソンである。彼の友人に對する偉大な感化の秘訣は、友人の爲の彼の祈禱の結果であるといはれてゐるが、或時友人の家で人間が相互の爲になし得る事の如何に少きかを語りあつた時彼は、「祈禱がなかつたら、私は氣狂になつてしまふと思ふ」といつたと云ふ。

三人目は昨年召された今井壽道先生である。或時先生が申された「祈禱をするに、或時は氣が向なかつたり、くたびれてゐたりする、然しさういふ時も止めてはいかぬ。努め努めるといふ事が大切である」といふ言葉も、いつも私のにぶい信仰をうつ鞭である。私はかう書きながらもロビンソンや今井先生の生活と私の貧生活との距離の餘りの甚しさに深く恥入る。彼等は皆信仰の馳場を雄々しく走り盡して、生前のみならず、死後も尚人々を斯樣に不斷に強く勵ましてゐるのに、果を結ばないのに恩寵で今年も殘された無花果の私は、依然として舊態を脫しないでゐる。「何といふ恐ろしい妄想に人類の大半は捕はれてゐるのか、悉くの人が救に召され、救はれ得る如く、悉くの人が祈るべく召され又祈り得るのに祈るやうな狀態に召されてゐない等と思ふとは！祈禱とは神に心を專にする事、愛の勤行である。」とギヨン夫人は云つてゐる。（詩六二ノ八）

祈禱に關する諸家の感想

一　小菅監獄典獄　有馬四郎助氏

神様の御力を言葉通りに全能と信じ苟も人間の考へを以て限局するの弊に陷らぬことです、然るに僅許りの知識に囚はれて神様の御領分を狹めてかゝりましては神様も決して働き給ひません。

「なんぢが信仰の如く汝になるべし」之が信仰の根本義かと存じます。簡單ながら之は私の經驗の總であり又祈の鍵とする所であります。

二　臺所研究會　五十嵐健治氏

奉天の日本基督教會に祈禱に熱心なる一老婦人ありて日夜教會及傳道の爲に祈る事を樂とせらる、或日一婦人頭部に繃帶して教會に出席せられたれば人々其故を問ふにニコ〳〵として答へず、後隣家の人より老婦人は毎日早天屋外に出で丶祈る事を日課とせられ居るをきゝ始めて繃帶の疑問は解けたり、即ち老婦人は氷點以下二十度の嚴寒に耳の凍傷に罹るを忘れて祈禱に熱中せられたるなり、是を知りたる教會員一同非常に激勵せられ其時より信仰著しく復興し亦多くの回心者を得たりと。是によつて見るも祈禱に大切なるは不斷の熱心と存し候多數の會員よりも一人の熱禱者を得度ものに候、祈禱は神の求め給ふ所であるといふ事（テサロニケ前書五〇十六―十八）は大なる獎勵に候。

三　矯風會大阪部長　林うた子氏

「汝等のうち二人のもの地に於て心を合せ何事にても求ば吾父は彼等の爲に之をなし給ふべし」神は祈らせて與へ、先祈る心を與へて而して其祈禱によりて求むるものを與へ給ふ。無覺の者に與へ給ふことなし。「神の手は短くして達し得ざるにあらず」「耳を造し者きくことをせざらんや」博愛社の今日迄の惠、大阪婦人ホーム購入の節、明

治四十年五月二十八日より滿三年間に其費用を與へられんことを祈り滿三年の明治四十三年五月廿八日の前夕迄に金額を與へられ、又大正六年五月廿八日に其改築を發表なして、祈禱の如くに大正八年十二月六日の〇〇迄に金額三萬圓を與へられました。博愛社の事につきては明治三十九年米國に於て祈りに祈り叫び求めて、二人の夫人より六千圓宛一萬二千圓與へられて、親切なる友人にうれしきかと尋ねられしまゝに「うれしきは勿論なれども、エホバは活く、神は活き給ふ祈禱をきゝ給へり」と叫びました。エホバ神は活く、祈らんかな、祈らんかな。

祈らなんまたいのらなん祈らなん、
　神のこゝろをさとりうるまで、

祈禱は實に靈の呼吸に御座候、（大正九年一月十六日）

四　日本赤十字社幹事　吉安延太郎氏

私は聖句の中で常に心を潜めて考へつ思ひつ、努めて鍛錬しつゝあるものは「求めよ然ば與へられ、尋よ然ばあひ、門を叩よ然ば開かるゝ事を得ん」であります。それは私が聖書につきて初めて耶蘇の聖旨を教へられた聖句がそれであつた爲でもありませうが、然しこれ位よく神の愛みと義しきとを表顯したものは珍らしい、又之位親しく神と吾等との連絡協和一致を根本とする教を要約したものも珍らしい發奮激勵させらるゝものも珍らしい、と思ひます。其眞髓は祈りを措いて味ふことは出來ませぬ、私は常に〱求むる眞心の充實せるや否や、與へられて之を活用すべき能力の存在するや否や、叩く程に積極的信入の希望を保有し居るや否やを顧みて神の前に畏れ懼くのみであります。（九年一月十六日）

五　救世軍大佐　山室軍平氏

祈禱は人を潔むそは祈禱は自己に對する說教なればなり。（リヒテル）

祈禱を朝の鍵又夕の門たらしめよ。（マシユーヘンリー）

人の心が啞者たる時の外天が聾者たる例なし。（ユールス）

逆境は往々惡人にも祈禱を教ふ而も順境は然らず（ベン、ジヨンソン）

敎會は血汐と祈禱とを以て世界を敎化す。

祈の實驗

仙臺日本基督敎會婦人會々長　野副とよ子

私は六年前河井先生に御目にかゝりました時、先生のお友達の方が其友の災難に遇はれし時に、其人の爲に「神よ私は今何を祈るべきかを知りません、斯かる場合にも御榮を顯はす事の出來ます樣に」と祈られ、後果して其方が大なる傳道を其災難によつてなされしといふお話を伺ひ、誠に深く感じました。其後間もなく六男が麻疹で病危かつた時、計らず其お話が心に浮み、同じ祈を心を込めて致しました。果して神は之をおきゝ上げ下さいまして、彼が全快迄に大なる傳道をさせて下さいました。又一昨年の十一月は盛岡の高等農林に在學中の五男が、惡疫流行の爲、學校がお休になつたとて歸つて參りましたが、二日目から熱高く、惡寒甚しく、肺炎併發それが又重態で、入院さへ致させる事が出來ませんので、私は看護婦と共に、一生懸命手を盡しました其間他の子供等も、それからそれへと犯されましていづれの室にも二人位宛打臥す有樣でございましたが、幸に他は大した事にもならず、治りました。其中私が犯され、立つ事が出來ないやうになりまして膀胱出血の餘病を引起し、非常に苦しんで居ります間に、五男の病勢又つのり危險といふに至りました。まだ年若く信仰の弱い彼は、如何許りか母の慰めを求めて居る事かと、せめて擔架でゞも離二階の病室に參り、充分に精神上の慰めを與へ、共に感謝して安き眠に入らしめ度いものと願ひましたが、其時私の病も重く、動く事は勿論、話す事さへ許されませんでした。其上折惡しくも京都大學在學中の次男も亦同病にて淋しい下宿屋で病んで居るとの報に接しました時は、薄信の私は、實に途方にくれ、爲す處を知りませんでした。もし私が神樣を知つて居りませんでしたら、氣が狂つて終つたかもしれません、幸に神樣は、私の心に一つの閃めきを與

へて下さいました。「汝等心に憂ふる勿れ、神を信じ又我を信ずべし（ヨハネ十四ノ一）嗚呼そうでした、最早人間の力では駄目、凡てを捧げて祈るより外はないと思ひまして、身も心も捧げて祈りました。神様は酸素吸入に功を奏させて下され、不思議にも其翌日から熱も下り、誠に涙を以て感謝いたしました。然るに三週間の後に、少しの油斷から又々肺炎再發、非常な衰弱の上に此度は心臟も肥大して　實に危險の狀態となり、或は心臟痲痺を起すやも知れぬとの事、此度こそは到底助からぬものと覺悟は致しましたが只此上は彼が終迄信仰を持ち續け、父や兄等を導かせて下さるやうにと、切に祈りました。此時は私も餘程宜しくなつてゐましたので、萬一の場合を氣使ひ別室に臥して居りましたが、又痙攣がきたからとの知らせを受け、心を靜めながら彼の病室に參りました、其時實に衰へ果てた彼は今にも呼吸を引とるかと思はれましたので、私は靜かに默禱いたし、さぞ苦しかろうが、お前のベッドの上に掲げてあるエス樣の十字架の像を見て、堪え忍んで下さい、そして祈つて下さいと申ましたら、彼は其像を見て涙を流しながら、心が亂れて祈る事が出來ませんから百七十一番の讃美歌を歌つて下さいと申ました。私は涙を呑み込み歌ひました、彼は大に喜びありがたう、大層よくなりましたと申して默禱を致しました、私も懸命に祈りました。それから彼は大層落付き初めて少し眠つたやうでございました。翌朝私はシユネダー夫人に、祈會を開いて戴く事を、電話で御願致しました、間もなくシユネーダー博士が御出下さつて、病室で祈つて下さいました。午後布施夫人が來られましたが、其時は大分苦しく悶えてゐますのでどうして神樣の御話を持ち出す事が出來るかと思はれる程でした。然し經驗にとみし夫人は彼の側に非常に同情を以て、看護の手傳をして下さいました。神樣の愛は彼の上に加はり、夫人のお話が進むと共に、見る／＼元氣づき、神樣の愛の有りがたい事等を話し、若し自分が召された時は讃美

歌百七十一と二百四十九とを歌つて下さいなど、さも平氣らしく申ました。私はお前と私の使命はまだ〳〵此處に殘つて居るから、まだ召されるやうな事はないと信ずる併し御心は何處にあるかわからぬから、其場合は最後まで神樣に惠まれ、充分御榮を顯はす事が出來るやうにと祈る外はない、と申ましたら、彼は微笑みつゝ、一人が失はれた爲め九人が救はれる事が出來たら、大した事ではありませんかと申ましたので私は心密かに此信仰があれば、まあ安心と、夫人と共に感謝いたしました。此時は私共が病室に入つた時の彼とは、丸で別人の樣になつて、喜びと感謝に溢るゝ有樣でございました。そして珍らしく食事も充分にとり、今夜位愉快な事はないと申し、十一時から、翌朝九時迄驚くばかり、安らかに眠り之を初めとして、ずん〳〵恢復致し、長き靜養の後翌年九月からは、學校に歸る事が出來ましたかゝる感謝は口にも氣にも表す事が出來ません。

昨年の十一月には九歲なる末女が痲疹にかゝりました。其數日前から私は上京して居りましたが、後から主人も上京、痲疹の樣子との事をきゝまして直に歸宅いたしたかつたのでしたが、止を得ぬ事情で、私一人殘る事にいたしました。其夕仙臺から痲疹重しとの急電に接しました。當時私は一生の中に又とあるまいと想はれる程の心配事を控へて、上京いたして居りましたので、其解決もつかぬ中に、又此悲しい報知、まあどうした事かと、お恥かし乍ら私は一時は途方にくれる許りでございました。併し此時も亦神樣は私の心に光明を與へて下さいました、「汝等心に憂る事勿れ、神を信じ又我を信ずべし」私は感謝して泣いてから祈りました、

「神樣靜子をあなたに捧げます、死ぬるも生くるも御心のまゝに。只彼女に私共兩親の歸る迄生命をお與へ下さい、どうぞ終迄彼女の可愛らしい信仰を續けさせて下さいまして、彼女のいつも祈るやうに、父や兄達を導かせて下さい」と、此時私は不思議な神樣の力を頂き自分にもわからぬ程平和に

なりまして、靜かに仕度をいたし、直に夜行で主人と共に歸宅いたしました。
其日は餘病の兆候もありませんでしたが、翌日は重い肺炎を起し、呼吸困難に陷り非常な苦しみでございます。彼女は私に、安國兄さん（五男）の時も、あんなに惡かつたのを、治して頂いたのですから、私も治して戴けるでせうねえと申ました時、私は實に胸が一ぱいになりまして、きつとお祈をきいて、治して下さるでせう、然し靜ちやん、天國も亦大變よい所だわねえと申ました。彼女はいと莊嚴にハイとうなづきました。布施夫人にお祈をして戴きましたら、彼女は目を開き、大層よくなりました、ありがたうと云つて、靜かに目をつぶつて、感謝の默禱を捧げて居りました。此クリスマスには兄姉と共に洗禮をうけさせて戴くのを、此上もなく樂しんで居りましたのに、醫師は誠に重態で危險だと申ますので、父の許をうけ、牧師を初め、數人の信仰の友に御出を戴だき、洗禮を授けて戴だきました。彼女の顏は喜を以て輝いて見えました、併し病はますます重り、熱は高し譫言許り申まして、誠に不穩の狀態で、醫師も危險と申しましたのに、此度も亦神樣は祈をおきゝ下さいまして、捧げし彼女は再び亦我家の花として返へして戴きました。翌日からはずん／＼恢復いたしました。此クリスマスには最早やなきものと思つた彼女は、感謝會をもかねました家庭のクリスマスに、お話や歌や唱誦などを、兄姉達と共に、樂しくいたす事が出來ました。家族は勿論來會の方々も夢かとばかり喜んで下さいました。
以上は最近の出來事に對するお惠みですが、既往十一年間祈に依て頂いた非常なる御惠みは一々書きつくす事は出來ません。

祈禱は神と人との意志の疏通なり　（ホルンス）

意味深かりし祈禱週

東京女子大學青年會　南波しげ子

過日本部に於ける役員會から歸り翌日からの祈會に就いて色々と祈り乍ら考へました。この期を利用して何か働き度い、どうかして青年會の精神を校内に徹底させたいと願ひました。それから二三人の役員の手を借りてあの祈祈の目錄を悉く謄寫版下すりまして五十枚ほど當地圖を書いてその周圍に世界各國の歌をつけ誰でも世界の爲に祈らんと思ふ方は御出席ありたしと云ふ樣な意味を記し、なほ大體の目錄をその上に掲げて皆樣を呼びました。司會は先生方にもして頂く樣に計畫をたてました。そして少でも人を引きつける樣な方法をとつて置き乍ら、その精神が失はれず祈祈週の目的が果たされる樣にと絶えず祈つて居りました。毎朝七時半から三十分間致しましたが、不思議な事には常の集會には二十人も集りませんのが、三十六七人から多い時には四十人以上も集りまして皆が心から祈りました事です。

今週の集會には殆んど全部の會員五十人程が集りました。此日(木曜日)は仕事會の筈でしたが、皆々の意見、要求を自由に言つてもろうやうな自由な會に致しました。色々と青年會發展に就いてお互に考へさせられました。そして會員一人々々が會員と云ふ責任を自發的に感ぜられた樣に見えました。此一週間の祈り會は慥かに無意味な形式的なものではありませんでした、慥かに祈祈することにより、特に此の一週間のあつた事によつて我等の閉せる心の戸を叩くに至つた事は事實で御座ります。昨日一會員が私も少し青年會のこの精神と自分等の働きとを學生の父兄、親類、朋友に公にし同情者の援助を得て徹底的に働きたいから私共の青年會の精神を書いたものが欲しいと言つて來ました。又つい先程一會員が私は忙がしいけれ共青年會の事なら何とかして時を割きませうから何でも言ひつけて下さいと言ひました。ほんとに喜ばしい事では御座いませんか。私共は喜でん受けるより與へると云ふ精神で働いて居ります。

戰後の英國より歸りて

東京青年會々長　志立たき

此度の私の旅行は別に之と云ふ目的があつたのではなく、只次女を英國に送りながら、五年振りに長女に會ひに行つたのでありますから取立てゝお話し申す樣な事はありませぬ。けれどもロンドンへ着いて直に氣が付いた事は、タクシーやらバスが先年行つた時に比べると減じた事、カーキ色の服を着て居る男女の多く居る事、それから公園の芝生が少し汚くなつて、花壇には比較的容易に培養の出來る種類の花が咲いて居た事などでありました。之は申すまでもなく、戰爭中公園に働く人が足りなかつた爲であります。又オックスフォード街などに行くと、其邊で以前は餘り見かけなかつた樣な人の姿が多く見えました。世人は英人の氣が戰爭以來、荒くなつたと云ひますが、それは多分今迄ロンドンの東の方にのみ引込んで居た人達が、開戰以來仕事が多く賃銀が高くなつたので、買物にオックスフォード街へ出たり、ハイドパーク邊へ遊びに行つたりするのを見て云ふ事でありませう。中流の英人、即ち英國の脊髓と云はれる階級の人達は、やはり皆紳士淑女である上に、氣分が引しまつて一層活潑になつた樣に見えました。

戰爭の慘禍は戰捷の恩澤を餘り蒙らない樣な人に最も多く降りかゝるもので、食料品が不足の場合などは、何方の國でも大抵貧乏人が一番苦るしい經驗をするのが普通でありますのに、英國では

一定の定められた分料

があつて、いづれの階級の人でも之を越す事は出來ない樣になつて居ります、他國から來た旅行者さへ不自由を感ずる事がありますが、それは英國民が上下の別なく、可成平等に戰爭の負擔をして居る事を語るもので、石炭が不足すれば、家の大きさと住居人の數とに依つて石炭を分配して、それ以上は賣買を許しませんから、金持も貧乏人も同じに寒い思をするのです。服裝の質素な事は、華美な日本服を見慣れた目には驚く程です、男子も女子も餘り違はぬ色合やら地質の物を用ひて居ます、時に流行の粹を極めた服裝をして居る者も見ましたが、おそらくそれは外國人でありましよう。

英國は擧國一致で敵に當つた樣に、今は戰爭に依つて蒙つた大損害を回復する事に國民一同努力して居ります。併し英國も天國ではありませぬ、國民の大多數は普通の人間でありますから、戰爭で人の苦しんで居る機會を濫用して、大金をもうけた人もありますけれども、成金振を發揮する機會も場所もないやうに英國全體の社會が出來上つて居ますから、日本の戰後の氣分とは大きに違つて居ります。

フランスからベルジユーム迄戰跡を訪ねて參りましたが、其慘憺たる有樣は筆にも口にも到底表はし得ませぬ、マア大地震の跡と云ふのが一番事實に近いでしよう。併し數哩に渡る森の樹木が一本殘らず枯れて居る所、或は元は豐饒な畑地が砲彈やら地雷火の爲めに大凸凹になつて居る所などは、地震以上の慘狀です。それにも増してあはれなのは、激戰のあつた所に、戰死者の姓名を印した十字架が何百何千と立てられてある間を、老若の婦人が三人四人連れだつて自分の近親の者の印を尋ね歩いて居た有樣であります。

夏草やつはものどもの夢の跡

といふ句も此戰跡には、あてはまりませぬ、何故なれば之は正義人道と、力は即ち正義（マイト、イズ、ライト）と云ふ二つの異つた主義の戰爭でありまして、權力の爭奪やら、武士の意地やら、親類の義理

などで闘ふのとは譯が違ひます。此處で戰つた人は所信に依つて戰つたので、今後十年或は數百年、人間社會が進歩して世界中に全く戰爭がなくなる時が來ても、此人々は人類の中に戰爭をなくする爲めに最善の貢獻をした人として、世界のあらん限り忘られる事はありますまい。戰跡の慘狀を見て、如何に獨軍が慘酷でありしかを考へると猶更戰死者が尊く思はれます。此樣な悲慘なところを相撲の勝負が、競走の跡でも見るやうに、此所は誰が負けた所だとか、勝た所だとか云つて、ゆう／＼氣樂に見物するのは、心ある者の忍びない事であります。

人は唯物主義に走ると冷酷になつて、他人の必死の努力に對し、無責任な批評をすることがあるので、他國人から自然と嫌はれるやうになるものであります、英國民が

一家のやうになつて苦痛を分ち

國力の回復に努めて居ることは、同情すべく、尊敬すべき事と私は深く感じました。

寄附金（浦鹽窮民の爲）

クリスマス前後にシベリアの哀れな子供の爲として本部がうけた寄附金は左の通りであります。

金壹百圓　ウキルミナ女學校靑年會及日曜學校
金拾四圓　九州福岡女學校靑年會
金參拾參圓　大阪女子靑年會
金四圓　鎌倉稻澤牧師經營愛隣館
合計　百五拾壹圓也

本部事業費として

金五圓　浦鹽婦人會
金拾圓　ミスウエリー
金貳拾五圓　東洋英和女學校
金五圓　五十嵐健治氏
金五圓　大平構成氏
金五圓　フランセス夫人
合計　五拾五圓也

紐育萬國女醫大會より歸りて

本部中央委員　井上友子

日本代表者といふ重い責任を負ふて、横濱を出立いたしましたのは八月二十一日でした。九月三日にシヤトルへ着しすぐ彼の地の青年會のお厄介になり四日程滯在いたしましてニユーヨークに參りました各國から此大會に來たもの丶宿として定められました旅館は、第一流のであつて其設備の整つて居る事實に驚嘆の他ありませんでした。代表者の國別を申しますと、英三諾威四佛四伊二露一南米二波蘭土一支三加奈陀三瑞西一セルビア一日本一といふやうになつて居ります。主人役となつて私共をお世話下さいました彼の地の青年會の方々の行屆いた御注意に、代表者一同は感謝と滿足とを以て、日々樂しく大會に出席した次第でございます。

大會は九月十五日から十月二十八日迄六週間開かれまして、其間に種々の協議・講演等がありました講演者は皆有名な教授とか醫師とか、又實業家、美術家さへも加へられてあつて、プログラムはなかなか念の入つたものでした。

此大會は、ドクトルブラウンの永年の希望が實現されたものでありまして、戰後殊に婦人の體育に注意し之が發達を計り、よき方法を講ずる必要が起つて來ましたので、斯樣な事を互に協議する爲に開かれたものであります。婦人の體育に關して、此度種々問題となつた中の一つは、爪先の尖つた踵の高い現時の婦人の靴であります、之は慥に姿勢を惡くする故身體に害があるといふ意見が一致して、早速靴

屋に交渉し、害のない實用的の品を製作する樣になりました。次はコーセットでありますが、之も亦大いに非衞生的のものであるから、今成長しつゝある女子は、使用しないやうにするといふ事でした。

次に重要と思はれる問題は母性保護の研究であつて、之は健康な國民を養成する爲に、根本となるべきものであります。之について議決せられました事は、若し妊娠中の婦人にして、十分な滋養物を攝取する資力のない場合には、之等の人々の爲に、簡易食堂の如きものを設け、實費を以て滋養物を供給するといふ事でありました。此事については、すでに彼地に於てよき方法が實行されて居ります。之は唯妊婦に限つて居るといふのではありません、誰でも行く事が出來るのでありまして、皆樣御承知の

カフエテリア(Cafeteria)式食堂

であります。先づ入口に盆、ナイフ、フォーク、匙杯が備へてあります。最初それらの食器をとつて、中に入りますと、一番初め目の所にはいろ〳〵の種類のパンが並べてあります。其中から好さそうなのを取て次ぎに行くと、今度は肉類が、之もいろ〳〵並べてあります、其中から又一品を取り、次はサラダ、菓子といふ順序に、最初の盆の上に段々食物を取りそろへて、最後の所で勘定の札をもらひます。そして都合のよいテーブルについてそれを食べ、出口の帳場で代金を拂ふといふ事になつて居ります。青年會でも此式を應用して、殆原料の價で食事を供給して居られます。四十五錢位でアイスクリーム迄食べられます、或所では二十五錢位で結構な食事をする事が出來ます。之より一層便利で衞生的なのはオートマットと申しまして、硝子張の窓の中に食物が並べてあります、そして一品五錢の物は白銅一つを上方の穴から入れると、自然に窓があいて、中のものが取れるといふ仕掛になつて居ます。一品十五錢の物は五錢白銅三つ入れゝばよいのであります。其所には兩替所もあつて、五錢の白銅に換へてくれるやうになつて居ります。

米國では何事でも議論と同時に實行されて居りますので、之は私共の大に學ぶべき點であると思ひました。ジョンスホプキンス大學の教授の御話の中に私共日本人にとつて、誠によい事がありました。

牛乳と菜(種類を問はず)の中には、人間の體に必要な活力素(Vitamin)があるとの事であります。幸日本には菜の種類が多く、又よく出來る國でありますから、私共は大に是を用ひたらよいと思ひます。次に協議された事は、男女とも結婚前に健康診斷を受けるやうに奬勵する事でありました。

米國に於て、花柳病に對する注意と、之が豫防に力を盡して居られます事は、非常なものであります此病は食器、手、衣服から傳染する怖ろしい傳染性を有して居るものでありまして、殊に淋毒の如きは直に人を盲目にする力を持て居ります。

紐育では市中の各所に此病のもたらす不幸な結果例へば、白痴とか家庭不和とはいふやうな事を書い大ビラを貼り、又は此病氣の恐るべき結果を來す事を仕組んだ活動寫眞を見せて、青年の男女を教へて居ります。

學校を參觀して驚きました事は、兒童の病を治療するため、專門〳〵に行屆いた設備が出來て居る事でありました。此設備は國民の税金と篤志家の寄附に依つて、置かれてあるものだそうであります。

喜んで寄附をする精神

の盛な事にも驚入ました、之は幼時から與ふる精神を教へ込まれて居るからでありませう。

まだ〳〵澤山お話いたし度い事はありますが、餘り長くなりますから、時を得てまた申上ませう。

大略此樣な社會の中にあつて、青年會の活動は大したものです、體育の方面では水泳や戸外運動の奬勵も盛んにして居られますし、醫師が藥の處方を書くやうに、身體檢査をして、運動の處方を書く等の事もして居られます。

とにかく斯の國の方が、机の上の議論だけでなく論ぜられ、研究された事はドシドシ實行して行かれる事には、感服の外ありませんでした。

活潑にして質素

田川大吉郎

西洋を見たと申しても、單に英米二國を見たのに止まり、佛蘭西、白耳義にも參りましたけれど、車馬的に方々を馳け廻つたに過ぎませんから、何も申上げることはできません、その英米の觀察も、ほんの皮相だけですが、其の內私の一番著るしく感じたことは、婦人の服裝の、日本に較べて、頗る地味に質朴に、儉素に見へたことであります。日本の婦人の服裝は、英米の婦人のそれに較べて、驚くべきほど華美にして贅澤であると思ひました。

先づ色合から申しませう、英米の婦人のふだん着は、槪して紺色か、黑色と思ひます、この色は申すまでも無く、地味な色で、質朴、健實、單純、儉素といつたやうな意味を代表して居ませう。

無論、日本服の色合の方が奇麗で、綺羅びやかであります、それだけ、華美、驕奢、贅澤、浮華といつたやうな感じが、日本婦人の服裝の上に多く現れて居ます。

次にその形の事を申上げませう、外でも無い、その袴の驚くべく短くなつたことであります、西洋の婦人服といへば、その袴の長いことが、特徵であるらしく、從來私どもの眼に映じて居ました。然るに今度參つて見ると、槪してそれが驚くばかり短くなつて居る。便宜のためこゝに倫敦乘合自動車の車掌の事を話して見ませう。

倫敦には御承知の如く、乘合自動車が、外のどこの都市よりも一番餘計にあつて、旅行者には至つて

便利である、その車掌は、前年參つた時は、皆男子でありましたが、今度は大概婦人でありました、この自動車は二階づきに爲つて居て、その楷子段は、螺旋形で、狹く、峻しく、かなりに高い、その昇り降りは一寸面倒である。二階に十八人、下に十六人合せて三十四人の定員であるが、但、下には坐席の外、日本の電車のやうに客の立つことを許してあるそれが四人、非常に混み合ふ時は六人に爲つて居る故に三十八人乃至四十人が定員である、その四十人の乘客を、二階と下とのかけ持で、一人の車掌が世話をする、その車掌が婦人である、餘程忙しい、無論日本の乘客のやうな狼藉の風は無いが、四十の乘客を次々におろして、次々に滿して、動搖の激しい車體の中で（電車に較べて）のべつ引つ切りなしに動くといふことは、決して容易な仕事で無い、それはその婦人達がまめに、甲斐々しく、自由に、活潑に働いて居る、私はそれをゑらいと思ひ、羨ましいと思ひました、どうだらう、日本の婦人も、こんなに甲斐々々しく、活潑に働けるだらうかと、日本人同志で度々話して見たことがありましたが、誰の答へも、いつでも、それは駄目だ、日本の婦人には、この眞似は到底出來ないといふ結論でありましたが、その結論の由つて來る第一の理由は、日本婦人のあの服裝ではこんな働きは到底出來ないといふのでありました、私も無論そう思ひます、日本婦人の服裝が惡い、あの服裝では、こんな活潑な、身輕な働きは、到底思ひも及ばぬことゝ思ひました、（日本婦人の服裝をどうにか變へれば、この働きが出來るかといふ問に、私は、尙否定の答へを致しました）

そのやうな短い袴をつけて、深い編上の靴、長い〳〵靴足袋を穿いて、袴と、靴との間に、見ゆる靴足袋の長さがやゝ長い。其靴足袋は、極めて薄く肉につき工合がよく、日本の婦人のやうに、着て居る着物に壓されないで、自由、敏捷に動ける、その動き方は一般の男子と少しも變る所がありませんでした、これは主として車掌に就て申ましたけれど、

一般の婦人もその通りです。これは戰時中、婦人を職工に用ゐ、兵員に加へた、その結果、俄にかくなつたと申すことであります。英米國の婦人服の短くなつたこと、從つてその動作態度の活潑輕快に爲つて居ることは著るしい現象と思ひます。

色の事、形の事の外に、日本の婦人は、西洋の婦人に較べ、着物の品數を多く有つて居らるゝのではありますまいか、西洋の市中で散見した所から申すと、どうも西洋の方は同じ着物を、打つ通しに着て居られるやうに見え、日本の婦人はそれに反して、金のかゝつた着物を取り換へ、引つ換へ、次々に換へて着て居られるやうに感じました、これは大體その服地と色合に由ることかも知れません、前に申した通り、その色が黑か、紺か目立たぬ色であり、其の品が一と口に申すと所謂羅紗地で、分が厚く、丈夫で、容易によごれず、永くもてる、日本のは概して地が薄くして弱く、色が褪め易くして、永持ちのしない所から、早く換へる必要がありませう、その外氣候の關係、日光の關係等いろ〳〵ありませうが、何にせよ、日本の婦人は、割合に多くの着物を備へて、西洋の婦人よりも、多く新しい物を着て居られる。

そこで考へねばならぬことは、日本の婦人と、西洋の婦人とが、その着物の選擇と、手入れ、仕度に要する時間、それに頭を費す時間、並びにそれにかけて居る金の多少の問題です、日本の婦人が、西洋の婦人よりも、割合に壽命が長くて、子供が少くて知識が進んで居て、金錢に富んで居ての上なら、いくら費されても差支へはありますまいが、若しそうで無いとすれば、かゝる流行、かゝる習慣の結果は怖るべきものである、それともそれは私の暗い考へである、少しもそんな心配は無い、日本の人は、西洋の人に較べて、貧乏であつても、虛弱であつても知識が不足であつても、それに拘らず、かくしてゝ、此の流行を此の儘に續けて居てゝと安心して居らるべき理由があると申されるのですか。

それから其の服裝の關係からでせう、男子と女子との差が、西洋に於ては日本の如く目立たず、その間が寧ろ近いやうに見かけられると思ひました。それは前に申した婦人の外出の服地が、紺色や黒色の羅紗類である如く、男子のも同樣の紺色や、黒色のものばかりで、その間に格別の相違がありません、殆んど皆同じ物であると申しても差支へありません、現に私は洋服屋に往つて、注文の切れ地を擇ぶ時、婦人の客が自分のを注文にきて同じ切れ地を取り合つたことがあります、日本ではこんな事は決して有り得べからざる事でせう、誰の想像にも決して泛ばない事でありませう、以て彼の地の服裝の一般が分りませう、こんな風ですから、途中に充ち滿ちたる往返の人々は、男子も黒裝束の人であり、婦人も黒裝束の人であり、老人も黒裝束の人であり、少年も黒裝束の人であり、紺か、黒か、そのやうの色合が、眼一杯に動いて居て、男子と女子との間に、日本のやうな判然たる服色上の相違の無い所に、興味を惹かされます、此事を、彼の地の風を、日本に較べて、私は著るしく感じた。

所がそればかしでありません。即ち西洋の婦人は現に男子と同じやうの職業を執つて居ます、乘合自動車の車掌は其の現實な一例である如く、學校の敎員も、郵便局員も、會社の事務員も、政府の役人も西洋の男女は總て打ち混じて、同一の事務を、同一に執つて居ます、ワシントンに政府の出版事務局がある、廣大な建物で、政府の出版事務を一切そこで取り扱ひ、その出版した書類を廣く全國に有代無代で分つて居る、私もそこに參りました、見る所の事務員は、總て婦人であることは驚きました、全部が婦人ではありませんが、テーブルを備へて、事務を執つて居る者は、皆婦人でありました（私の見た部屋丈けの事）これは一例である。どこに往つても此のやうな光景を見ました、西洋の婦人は、今所在に男子と轡を駢べて縱横に馳走して居ます、現にワシントンの國際勞働會議にも、婦人の委員を出しま

した、お蔭で日本からも婦人を出しましたが、來らんとする國際聯盟會議に、日本から婦人の委員を出すか、どうかは知りませんが、英國では婦人からも委員を出すべく、大いに運動して居ました、國際聯盟會議の目的性質如何、それは今後の世界を平和に導くか、導かないか、世界の治亂興廢を一手に、その肩に負ふ所の大切の機關である、婦人もその機關を構成する要素となり、その責任を敢てその肩に負はうとするのであります、彼等は男子とその服色を同じうして居るといふのみでありません、實にその剛健味を男子と同じうして居ます、こゝに私は、日本の婦人が大いに注意すべき、觀察點があると思ひます。

終りに當つて何申上ます、これは單に形のみに止まつたお話でありました、然しながら形は精神の表現ではありませんか、精神あつての形ではありませんか、形と精神とは、日本人のやゝもすれば申す如く、別々に引き離すことが出來るものでせうか。

日本人はやゝもすれば、西洋は物質に於て日本に優つて居り、日本は精神に於て西洋に優つて居ると申しますが、精神と物質とは、そんな風に截然と區別することが出來ませうか、あなた方は、あなた方の形體と、あなた方の精神とを引き離して、別々に考へ、別々に觀察することが出來ますか、あなた方の精神は、あなた方の形體に伴ふたものであり、あなた方の形體は、あなた方の精神に伴ふて居るものではありませんか、そうとすれば、形に止まつたこのお話も、この形に潜んで居る、伴ふて居る精神、この形、この習慣を現すに至つた氣象、精神、その生命、その糧は何處に在るかといふことを思ふていたゞかねばなりません、私は、それを皆さんの想察に任せます、どうかあなた方の想察の力を加へて、その精神上の方面の事を十分に御推斷下さい。

田川氏は御承知の通り我國の有する少數基督者政治家のお一人でありまして右のお話は昨年氏が尾崎行雄氏と共に英米を漫遊せられた時の御感話であります。

ウヰルソン大統領の事ども

代議士　高橋本吉

私は八ケ月間歐米を漫遊したが、出立前政治家中に米國大統領ウヰルソン氏の品行を批評して、彼は六十四歳で政治家であるのだから、素行おさまらないのが尤であると、自分達の事に引合せ、大統領の不道德を非難して居たのを耳にした。

パリーあたりの日本軍人は盛んに大統領の不道德を叫んで居る。伊太利邊でも同樣である。

其所でどうしても其眞想を考究する事が必要と思ふて、米國に渡つて親しく之をきゝ正したのである。もと大統領がプリンストン大學の總長であつた時に私は學生として、前夫人を親しく知て居た。大統領が前夫人を虐待した等といふ流言は、實にとんでもない事である。同大學に於て大統領と十年あ、思想上其他に於て喧嘩をして居たウエスト教授に會つて之を尋ねると、ウヰルソン氏の品行上或は彼の家庭に於ける生活には非難すべき所は一點もない紳士である、と明言して居た。他の教授中ウヰルソン氏を排斥した連中でも、此點に於ては、皆彼を稱賛して居る位である、のみならず彼の令孃は、他に嫁して居るが、大統領が近頃病身であるときくと、皆白亞館に(大統領の住居)來て看護をして居る。若し母が虐待されて、死んだのであるなら、どうして其娘達が、いつも父を慕ひ、彼を愛し得らるゝものか不思議である。又前夫人の令妹と他の令妹の夫なるマクネット氏は、ウヰルソン氏と親しく、常に彼の爲に樣々の勞を取つて居る。

ウ氏の病身は不道德の結果だ等と、よく日本人は云ふが、此評は何所から起つたかと尋ねると、誰も返事をする事が出來ない。然し或者は、彼の侍醫であるアドミラルグレーソン氏がそういふたと傳へるものもある。所が此醫師は、何所に大統領が行くのにも隨行して、彼の健康を保證して居る忠實な人であるのみならず、此醫師の夫人が、今の大統領夫人の媒介者である。斯る親しい間柄である所を見れば此醫師から左樣な誣言が出る筈はない。又今の大統領夫人は、寶石屋の娘で、彼は富の力で今の米國議員や政治家達を、弄落して終つたのだとの評判もきいたが、之も亦非常な誣言である。

夫人の實家を訪れたが、之は小な店であつて、西洋では、時計を賣る小店にピンだの腕わ等も賣つて居るから、斯る店をジユエルストアーといひ之を寶石屋と譯すものだから、とんでもない誤解を買ふのである。夫人は眞面目な人で、大統領の令孃と友達で、娘か仲介人となつて結婚したのである。

或人は又此夫人には黑人の血が流れて居るといふが何から何迄、之は間違つて居る。彼女の容貌、品性等を日本人が知りたく思はゞ、東京の聖ルカ病院長トイスラー博士を知るがよい、即彼等は從兄弟柄である。斯く親しく、それからそれと調べて見ると皆之は種子なき流言で、唯彼を傷けやうとする輩のたくみである。米國人中にも彼に對して、樣々の流言を弄ぶものがあるが、彼の親友達は名譽を洗ひさらうと（ホワイウワシユ）努めて居るものが非常に多い。日本の軍人及政治家は品行の惡い事を意としないものが多いから、それらを以て大統領の人格を傷けるといふ事は、我等の捨て置くべき事でない。必彼が光明正大になり、道德的に高潔な紳士として世界の尊敬を受る日が來るであらう。（在文責記者）

自由と責任

大橋房子

私達はあこがれの子です。神を憬れ、美を憬れ、青空をあこがれつゞける籠の中の小鳥です。憧憬れは籠の女の遙か彼方にあります。あこがれの心は籠の目をぬけて飛んで行きます。然し飛んで行く心と籠の内部に止らねばならぬ自分との間の矛盾に氣のつく時、私達は籠の女の束縛に堪へられなくなつて自由を求め開放を叫ばずには居られません。

自由！　自由！　口ずさむにふさはしい滑かな音調を有つた自由！　野心に燃え立つ青年の胸に、閉ぢ込められた乙女の心に、革命の夢に狂うた男女の脣邊に、此美しい言葉は幾度繰り返されたでせう。佛蘭西革命のモトーの一つに數へられた自由の語は相次いで火蓋を切つた各種の開放運動の導火線になつたといつても差支へないと思ひます。自由を憬れる心は徐々に民衆を暴君の手から、奴隷をその雇主から、兒童を專横な親の手から、勞働者を資本主から開放して來ました。そして最後に殘された大きな事業は婦人開放の運動だと思ひます。

數世紀を通じて暴虐な男性の壓迫と束縛とを忍んで來た女性が、今聲を大きくして婦人の開放を叫ぶのは、自然の勢と云はねばなりますまい。又彼等の要求する自由は早晩獲得せられるでありませう。

然し私共が夢見る美しい自由の名は、實際に於て非常に危險に暗黑面に隣接して居るといふ事を忘れてはなりません。不用意に、無自覺に春のやうな自由のぬくもりに溶けた心は、忽ち自由の樂園から誘惑と墮落の深淵に落ち込んでしまひます。

開放の曙光に狂氣したある種の婦人等や、交戰諸國に於ける婦人等の醜體は、異様な心で自由を憬れるものを悲しませずにはおきません。

長い間束縛に束縛を重ねて來たのだもの、なはめ

のゆるみかけたのに乘じて少し位氣儘な眞似をするのは、無理のないことだ。待等は數十代に渡る祖先等の、つもりにつもつた復讐をなしつゝある。

憐むべき過渡期の犠牲者だと、同情ある論者は此種の婦人等の放縦な行爲を、大目に見てくれます。しかし、私共は女性の立場として、のんきにこんな事を云つて居られるでせうか。自分の意志を空うしてまで、祖先の復讐をなさねばならないでせうか。

Freedom with responsibility といふ言葉は、現代の米文學をつらぬく一つの主潮であると云ひます眞の自由は決して放縦の意ではありません。自由の樂園は誘惑と墮落の淵に隣接して居るとはいへ、樂園の透明な空氣は不純な汚點に濁されて居ない筈です。責任ある自由の樂園にこそ、健全な生の悅びの花が咲き亂れるでせう。凡ての建設的存在の事業は此花の香と蜜とを吸うて成長するに違ひありません。

開放の期は近づきつゝあります。私共は自由の羽ばたきを間近にきゝます。籠の戸の開く時、樂園のとびらのゆらぐ時、私共はあこがれの中核に向つてまつしぐらに突進するだけの熱と力とを持つて居らねばなりません。

暗い滅亡の淵に導かうとする迷路には見向きもせず美しい花を採み健かな木を生ひ立たしむる事の出來るだけの心の準備をしておかねばなりません。

與へられた目的を善用し得るものこそ、眞に自覺ある、醒めた女性であると思ひます。

——一九一九、一二、一九夜——

○新入會員

藤谷　けん　戸川　泰　最上　たか　小林　せき
佐野　榮子　沖　りヨ　菊地　周子　木村　ちか
足立　順子　足立　操　山本　喜代　堀田　とき
宮本　仙子　豐田　满　齋藤　つや　中村　よし
吉田　花子　川上　愛　櫻井　タキ　佐々木　仙
岩崎　すみ　廣瀬　錸　中田　きさ　海老名　正
高島　マサ　山口　操　島本　操　竹内　よしえ
田阪　しづ　本倉八重野

○雜誌購讀者

横田　安子　菊鳴　とよ　吉岡　千代　近藤　夫人
宇野はつゑ　村上よしゞ

與へる歡喜

お茶の水高等女學校五年生　三輪田良子

都の盛場には澤山の美く飾りたてた人々が、思の儘に自分の欲望を充して、遊びたはむれて居ます。其裏面にはどんなに澤山の犧牲があるかも忘れて。斯樣な華かな町の片隅に、此寒空を夜な／＼遲く迄、薄着の儘、哀れな金切聲を振りしぼつて、「夕刊夕刊」と呼んで居る可憐な子供達もあれば、又親の生活の爲めにか弱い身に餘る勞働を強いられ、グングン育つて行く心の淸い芽をむざ／＼と踏みにじられて、生れもつかぬ利慾に走る冷たい人に育てられて居る子供達もあります。親の責任は決して輕くはありません、けれど私共、此種な子供達の同胞にも亦責任があるのではないでせうか。境遇こそ違へ、あの子供だつて私共だつて神樣の御前には同じ子供なのです、どうかクリスマスの喜びを分けて上げたい！こんな感は私共英語の聖書の組の者に一つの計畫を立てさせました。時は十二月二十日の午後一時神田女子靑年會に、東京一の貧民窟と云はれて居ります新網の子供達二十人許りと他に新聞賣子を二十五人程招待する事になりました。

私共數人が新網へ子供を迎ひに參りまして神田へ伴れて來る迄の骨折は一通ではありませんでした、生れてから幾度と數へる程しか乘つた事のない電車の中のはしやぎ方、同乘者のいぶかしげな顏、車掌の面倒くさそうな樣子、私は恥かしいやら、悲しいやら、つひ弱音を出し度くさへなりました。眞の愛の足りなかつた事を神樣に御詫びいたします。

何も知らないで嬉々として居る子供達を見ました時、着て居ります物は汚れ、顏も手もねずみ色な子供達にもやはり神樣から與へられた無邪氣さと淸さとを見出さずには居れませんでした。皆私達の妹であり弟であるやうにさへ感じました。そして、今日

は此子供達を充分慰めて滿足させてやらなければならないと私共の心は一樣に緊張して終つたのでございます。

小いお客樣を可愛らしいクリスマスツリーの前に坐らせた時、何とも云はれない強い同情と責任とを感じました。一週間も結ばない樣なひつくり返た日本髮の子、素足の儘の冷たそうな子、眞青な顏に二本鼻をたらしてポカンとしてゐる子、はげたぼろの着物に一年も洗はない樣な前掛をしてゐる子等皆とりどりに可哀想な風をしてゐました。でも皆おとなしくクリスマスの話をきゝまして、時に可愛いゝお客をしたり等いたしました。椅子取や西洋鬼や猫と鼠等のゲームで思ふ存分さわぎまして、大分皆が疲れた頃、再び半圓形に椅子をピアノの前に並べて、ミスダニングの英語のお伽噺の表情に皆可愛いゝ相好をくづして笑ひました。それから皆の知つて居る唱歌や讃美歌を歌つて居ります際中に、溫いおうどんがお割烹室から運ばれ、お茶碗になみ〳〵と入れて配られました。遠慮も何もあつたものではありません、一度にどんどん食べ初めました、お代り〳〵とよく賣れました事、どんなに出し甲斐があつてうれしかつたか知れません。私共が我まゝで好き嫌いをして居るのはほんとにあの人達に對してすみません、本當に滿足と感謝に溢れてうどんを食べて居る子供達から敎へられました。それから私共は早速サンタクロースになつて、皆に羽根羽子板雜誌下駄パン等を配りました。先生方に迄お骨折戴いて集めたものが、いよ〳〵今日此子供達を喜ばせる喜びの種子となつたと思へば、與へる者の歡喜は、慥に受ける子供達のそれにまさつて居たと思ひます。そして受ける者の歡喜も決して少くはありませんでした。大きな贈物の新聞包を抱へて、喜に充ちて歸つて行く子供達を見送りました時あゝ其時程私共の胸が、喜と感謝に滿ちた事はありません。

「與へる歡喜」それは何よりも尊い美しいものでせう。私共の樣な力ない者をも用ひて、此歡喜を得させて下さいました神樣と、此度いろ〳〵お助け下さいました先生方に、心からの御禮を申上ます。

横濱女子青年會

世はクリスマスの買物よ、年の暮よと道行く人の足音も忙はしげに聞ゆる十二月二十一日、當會館に於てクリスマス禮拜を室原會長司會の下に催しました。クリスマス親睦會の方は二十四日の夜、當會教育部の方々のため催され、常には同じ會館に來て居られても級の違ふ爲め親しく語り或は遊ぶ機會のない方々も、此夜は種々のゲーム等に心から打とけ、一夜を樂しく送らるゝ樣を見ては「日本の女子は遊ぶ事を知らぬ」と評さるゝ方々に見せ度く思ふ位で御座いました。斯樣にして年も愈々暮んとする十二月二十八日、當會修養會クラブの主催により淺間町貧民小學校のためクリスマス祝賀會を開きました。當日は折からの風雨と寒空に拘らず午後三時からの會と申すに、二時頃から子供達は押かけて參り、ガヤ〳〵を開會と促して居りました。第一部を禮拜としクリスマスの御話を聞かせ、第二部のゲームに移りましたが、私共迄何も忘れて遊びました。其夜も丁度來合せた或子供の母親が見て「私共では三疊に七人といふ生活をして居るものですが、其樣な者の子を先生方があゝして一緒に遊んで下さるとは勿體ない事です」と泣て申て居りました。用意して參りました古着其他の贈物を與へ散會にしましたが雨は益々強く成て參りますので「皆樣に上げた紙鳶は雨に濡れるから明日迄先生にお預けして行きなさい」と申ますと「あたいの羽織で包で行ふと思ふて居るだよ。だから持て行ていゝだらふ」と見れば早綿の出た羽織を着せられた紙鳶は、胸にしつかり抱きしめられて居りました。子供達、親達の顏は喜に滿ちて居りましたが、之を見た私共の滿足は其に劣らぬものであつた事を信じます。

十二月二十三日で終りました級々も、一月十二日から始まり、會館も再び賑ふ樣に成りました。私共も大なる希望を以て此新年を迎へましたが、皆樣の御憶えを願ひ度いのは、二月廿一日からの新會員募集運動で、五百名以上集める豫定で御座いますが、何卒皆樣の御祈により御援助の程願ひ上ます。

神戸女子青年會

本會にては新しき大正九年の春を一同無事に迎へ新しき信仰と勇氣と希望とを以て一月八日より事務を開始しました。今は當地に於て流行病が最も猖獗を極めて居りますので、教育部の働には大に不安を抱いて居ります。私共は此時期を以て內的の準備に用ひ暖かき春を迎ふと同時に活動を初め度祈り且盡して居ります。過去に於る諸姉の直接間接の御奬勵御補助を感謝し、此後とも以前に增して御心にかけられます樣御願いたします。

次に過る一ヶ月間の大體を御報告いたしますと、十二月廿一日にBGクラブはクリスマス祝會を催し七十餘名の姉妹方集られ創立委員の一人なるスミス夫人のクリスマスに關する御話を伺ひ後親睦に時を轉しました。此日は唯クラブ員のみならず廣く有職の若き方々をも御招きして樂しみを分ちました。同廿二日にはクリスマス講演會を開き大阪の西野貞子女史を御招きして最も有益な御講話を承り、クリスマスの音樂をきゝ、三十名程の姉妹方が温き家庭的な時を持ちました。同日午後六時半よりは渡米婦人の爲のクリスマスを致しました、丁度大きな船が二つ程出帆する前なので百人程の渡米婦人が當地に滯在中でした。當夜は二十數人を附近の旅館から誘つて參り、美しきクリスマスの木で飾られた事務室にて祝會を開き有益な御話等あり、樂しく一夕を過し茶菓の饗應の間に談笑し各自本會よりの心計りの贈物を携へて喜々として旅館へ歸られました。當日は縣廳の移民係の御役人や牧師新聞記者等も參會されました。渡米婦人の中には四人の沖繩婦人も混つて居り、歸途一職員に讃美歌を乞ひ毎日此樣な集はありませんか等言ひ心から感謝して散會した人々もありました。本會にては此クリスマスに何か他人の爲めにして上げ度い考へから、婦人同情會の爲に品物やお金を集めて、僅でしたが同會にクリスマスの贈物として差上ました。

友壇

□迫害以上の迫害

富山　亀谷凌雲

今回の小生が郷里傳道に關し多大の御同情を蒙り居候事、唯々感謝の他無之候、過日は靜司君を通して新潟の洲脇姉岡山の土井姉の御寄附を頂戴いたし、只今は又横濱の山田しゆ子姉の御寄附を戴き感謝いたし候、何れも直接御禮狀を差上候、去る四日初めて講演會を開き得ゝ運に相成候、其後毎週種々の集を開き種々試み居候、設備も漸次整ひ、町の人々も漸次注意を拂ふやうに相成候時々附近の寺院の方々來訪せられ福音の傳はる機會の漸く加はり來りしを喜び居候。更に祈り更に御榮の顯はれん事を期し居候、迫害は豫期せし程之なく候へ共、迫害以上の迫害は、人々の宗教に冷淡なる事に候。

□散會にも聖靈をそゝぎ

松江　秋庭よし子

御早々と雜誌御送り下され誠にありがたう存じました。先生の天草九州御視察を御書き下さいまして誠にありがたうございました。天草の人々の爲めに唯祈る事が出來ます事を思ひうれしく存じます。パジエントの記事を興味深く拜見いたしました。まあ之を實際に見る事が出來ましたらと讀む度に思ひます。初めてパジエントを知りましたので尙其感を深くいたします。毎月御發行の雜誌を見ます毎に、青年會の盛である事が明に見え嬉しく思ひます。神樣は私共の教會にも聖靈をそゝぎ、一層よい働が出來ますやうに私共の祈を待つて御いでになると存じます。

□働甲斐のある世の中

京都　中村艶

會の大體、殊に會員數「四千五百名」を知り得て、どんなに嬉しうございました事、又今年祈るべき題目を御知らせ下さいまして有りがたうございました。いよ／＼吾々の働くべき時代が來ました樣ですどんなに生甲斐のある働甲斐のある世の中になりました事でせう　益々御自愛御自重なされつゝ陣頭に立つて戴きます樣いのりあげます。

□樂しさを追想いたし

神戸　河上末子

一月九日より入院いたし治療をうけながら一昨年中青年會に勤務時代の樂しさを追想致し居候、最近共に起伏致し候忠紳流感にて逝き今更ながら人の一生の興味深きを感申候。

新刊二書紹介

M・M・

「祈の生活」載せる所十八篇、何れも祈に就て說かざるはなく、祈に就て我等に敎へざるはない。如何なる境遇の人も信仰の如何なる道程にある人も、之によつて導かるゝ所の多い必讀の書である。祈に關する日本語の書の甚だ尠き今日、植村先生によりて斯る良書を與へられた事は歡喜と感謝とを禁じ得ない。

（定價一圓五十錢）

「女子祈禱の栞」米國一女流の著を女子英學塾敎授山田琴子女史が譯されしもの。女子用の懇切叮嚀な祈禱の範例が澤山示してある。反省默想祈禱のよいしるべである。

（定價五十錢）

祈禱書紹介

■祈禱と默想　尾島氏譯（定價一圓）
■祈禱の能力　日高氏譯（定價一圓二十五錢）
■日々の祈　松本氏譯（定價八十錢）
■靈交餘　栗原氏譯（定價一圓）

■宗教の中心事實としての祈禱

星野光多氏著（定價二十錢）

■基督者の日常生活

原田友太氏譯（定價六十錢）

■日々の基督　津金氏譯（定價一圓三十錢）

販賣所

東京赤坂溜池町三〇　基督教書類會社

東京々橋區尾張町　警醒社書店

消息

□歡迎會　東京女子青年會々長志立タキ子 本部委員井上友子兩氏の歡迎茶話會を一月十三日小石川小日向臺町一ノ七五幹事宅（新渡戸邸）にて開催し兩氏の感話ありたり（別項記載）

□加州上院議員　ピル氏は一月十六日幹事宅に招待され、數名の日本婦人に會ひ加州問題を語り兩國の親善を誓はる。

□松岡鎭枝氏（本部委員）舊臘二十八日隣家よりの發火にて類燒されたり。

□山本琴子氏（大阪幹事）休暇中上京され不幸にも流感にて靜養中なり。

□ミス、クロフォード（京都幹事）父君の死去と母君の御病氣の爲一月五日俄に歸米。

□ミス、チエンバース　病氣の爲一月歸米。

□坂本花代氏（東京幹事）感冒にて靜養中。

□河上末子氏、女子御分娩、其後感冒にて神戸衛生院に御入院の由、全快を祈る。

□早瀬のぶ氏、御上京の砌本部訪問。

□懇親會、東京男女青年會、廓淸會、鐵道青年會、禁酒會、矯風會職員は一月九日女子青年會館にて會食後親睦會を開きたり。

□生活改善同盟會　東京知名の男女にて組織されし同會の發會式は一月二十五日明治會館にて擧行さる。

□請願書提出　婦女新聞發起となりて、女子高等教育に關する請願書を、新婦人協會發起にて結婚制度に關する請願書を議會に提出する事となれり。

□結婚同盟會、同會は尾ノ道にて組織され婦人の覺醒を増進せしむる目的なりと。

□音樂會、女子英學塾は基本金募集の爲二月十一日大音樂會を帝劇に開く由。

□講演會．横濱女子青年會は二月二十一日講演會を紀念會館にて開き、其後數日間に渡り五百人の會員募集をなす計畫なりと。

編輯室より

タイプライターの音をきゝながら二月號の編輯を終りました、萬國學生祈禱日を控へて居りますので此號には可成祈に關する記事を多く選びました。テニソンがキングアーサーの口を借りて申ましたやうに　祈に依つてなされし事は世の人が想像するよりもずつと〳〵大なるものがありませう。私共は本當に祈の天才になりたいものであるとつく〴〵感じて居ります。時節柄讀者諸姉の御健康を祈ます。

一九二〇、二、二〇、H．A．

摘要

△本誌代金は總て前金にて御拂込被下度　前金切れの捺印有之候節は直に御拂込被下度候

△御送金は振替にて拂込まるゝ方便利にて且間違も無之候、但手數料壹錢を御加へ下され度候。

△振替、東京、貳參七貳參番

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵税

	内地	海外
一部	金十錢	金拾三錢
一年前金	壹圓	金壹圓四拾錢

廣告料

一回掲載	
一行 金五拾錢	一四分頁 金五圓
半頁 九圓	全頁 金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正九年一月廿八日印刷納本
大正九年二月一日發行

發行所　牛込區市ケ谷田町三ノ十二　日本基督教女子青年會　電話番町四五六三番　振替東京二三七二三番

發行兼編輯人　牛込區市ケ谷田町三ノ十二　河井道子

印刷人　芝區三田和泉町七番地　前川吉次郎

印刷所　右同所　三成舍

W. M. Vories and Company, Architects

Hachiman, Omi
and
National Y. M. C. A. Building,
Omote Sarugakucho, Kanda, Tokyo.

建築 設計監督 ヴォーリズ合名會社

近江八幡町

東京出張所　基督教青年會同盟會館內

東京市神田區表猿樂町

電話本局六二四番

T. YAMAMOTO

EMBROIDERER AND DRESS MAKER

No. 61, Yamashita-cho, Yokohama, Japan

Tel. Honkyoku No. 3993 (Near the Grand and Oriental Hotel)

Embroideries	Ready Made
Silk Linens and Cotton Crapes	Dresses Blouses and Under Wear

Always on hand at Moderate Prices.

絹物商 山本商店 電話本局三九九八番

横濱市山下町六十一番地

year were entertained at a house supper, foreign style, Dec. 29th, and all the class girls had an evening party, Dec. 23, at which the pageant, "The White Christmas," was given by 19 girls with much spirit and dramatic effect. There was special music afterwards, refreshments and games, a real Christmas frolic. Many of the newer girls found a fresh satisfaction in their connection with the Association. The decorations all through the house were especially pretty, the evergreen festoons hung with silver stars and the Yuletide red showing in streamers and the beautiful branches of red berries so plentiful this season. The Christmas Sunday service of worship was attended by more than 55, and in its music by the Willmina School girls and its message by Mr. Biba, a Japanese pastor, reflected very fully the spirit of Christmas. On the following day, the welcome news was received that the necessary government permission had been granted for the Osaka Y.W.C.A. to begin to ask money for the new building which it so much needs. The Christmas exercises of the neighboring kindergarten were held on the 24th in the Association building, and on the 25th all the Association secretaries enjoyed a Christmas breakfast together, American fashion.

With the New Year, many plans of progress are being set in motion. Committees are being built up and reorganized, the night school courses extended, and plans for work among younger girls are in prospect. All efforts are for three months intensive work before the close of the public schools and the advance of the warmer season.

KOBE.

The Emigration work of the Kobe Association has been taking stock of the work accomplished during the last year and finds that 3014 pieces of literature have been distributed. At the initiative of the Emigration Secretary, Mrs. Otsuka, a special Christmas party was held for emigrant women about to sail. Evangelistic talks were given, and there was a very happy atmosphere, enhanced by the Christmas tree and decorations, cakes and presents. The women warmed to the extent of expressing their hopes for America and several promised that they would study English. Four bought hymn books and one said she wished to become a Christian with her husband who had preceded her across the ocean. Besides the women, officials concerned with emigration, a pastor and newspaper man attended.

The Business Girls Club of the Kobe Association had a Christmas party at the home of one of the Board members, Mrs. Roy Smith, with 70 young women in attendance.

The Christmas for the general membership of the Kobe Association took the form of a meeting addressed by Miss Nishino of Osaka. Her subject was "The Meaning of Christmas."

After a long search, the Kobe Association has at last found very desirable headquarters and hopes to move in the early spring. It is a large house with several rooms upstairs and down, well adapted to either class activities or large group meetings. Its location is ideal—on one of the broad and convenient streets of the city where it will be accessible to girls from business and school interests.

A club for some of the leisure women of one of Kobe's suburbs has been started with its initial purpose being the study of English, Bible, child welfare and social welfare.

During Christmas week tea was served in the Association office every afternoon and guests dropped in. Gifts of clothing and money were also collected for a home for girls in the city. Over twenty yen was contributed in money for this work.

KYOTO.

Miss Inez Crawford, the general secretary in Kyoto was called to America in early January by the sudden death of her father. It is hoped that she will be able to return to her work in Kyoto by the end of summer.

At present Miss Anna Birdsall who came to Japan in October is left alone in Kyoto to carry on the work that has been started there. She is finding her time more than full with classes, directing educational work and Bible classes and making contacts with the people of the community.

the effective developing of the Student Department of the Tokyo Association will make it's appeal to many and that we will have the support of all who can make any contribution no matter how small, to the long and rather tedious siege that the proper compiling of this survey means.

Mrs. Shidachi, the president of the Tokyo Association, returned with her husband late in December from a trip to England and America. Mrs. Shidachi placed her second daughter in school in England, and also visited her eldest daughter who graduates from Westfield College, London, next year. The members of the National and Tokyo committees and the staffs were entertained at the home of Mr. and Mrs. Shidachi, Shimo Shibuya, January 12th, and heard many interesting things regarding their trip, among them their visit to some of the devastated regions of France. At the regular monthly Sunday meeting in January, Mrs. Shidachi also spoke to the Association members of some of her experiences on her trip.

To bring about closer fellowship and more sympathetic understanding of the purposes of different Christian organizations, the staffs of several societies met at the Tokyo Y.W.C.A. on the evening of January 9th, and had supper together, followed by an hour or two of games. There were representatives from the W. C. T. U. National Sunday School Assn, Purity Assn., National Tamperance Assn., Railway Y.M.C.A., and the National and local Y.M.C.A. and Y.W.C.A. The supper was served in cafeteria style, and places were changed with each course, giving opportunity to meet as many different people of as many different societies as poisible.

YOKOHAMA NEWS.

Following what has come to be a regular Christmas custom with the Yokohama Association, the members of the Summer Conference Club gave a Christmas tree to 130 children in a free school in the slums of Sengencho. All members of the Association were urged not to give presents among themselves but to bring money instead for the poor children. On the cold rainy Sunpay after Christmas, a group of members and secretaries waded out between big factories and then a succession of rice fields until they came to a school which should have been for fifty children, but which handles 150 during the day, taught by one teacher, an elderly gentleman with the face of a mediaeval saint. The place was full of waiting boys and girls, many of them unkept and very thinly clad. In this school they need not pay any fees, and books and necessaries are supplied.

First they sang a Christmas song which nobody knew, and it was nip and tuck who could finish first. A familiar hymn went better and even more heartily. Kites for the boys and balls for the girls, and candy for all, sent them home happy. As by common agreement the boys took off their coats to cover their kites, rather than leave them with the teacher until the next day, some must have returned pretty cold and wet.

The Summer Conference Club tries to do a piece of social work each year. It is composed of girls who have been to a summer conference, and members come from all the mission schools as well as the city asscciation.

For ourselves there was a Christmas service with songs and recitations and a beautiful Christmas story on The Sunday before Christmas, and on Christmas Eve, party for members of the educational classes. This the girls did mostly themselves, with one beautiful Christmas tableau, several short skits in old fashioned Japanese style, and games and refreshments.

Plans for a membership campaign are being drawn up by the commitee, and the aim is to more than double the memberships. As there are many women interested in our work, doubtless only waiting to be asked to join, and many new friends were made through the pageant, the committee are very hopeful.

Miss Yokozawa spent her vacation at her home in Sendai, the first New Year home in three years. Miss Toshi Ueno has completely recovered from an attack of influenza, which began immediately after Christmas, preventing her leaving for her home during the holidays.

OSAKA ASSOCIATION.

Christmas celebrations in the Osaka Association marked real growth in Association spirit and fellowship, particularly among the younger girls and the volunteer workers. The class teachers and a few invited guests who have given special survice during the

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KWAI)

Volume 18 | February 1920 | Number 2.

NATIONAL

Miss Kawai, National Secretary of the Association in Japan leaves for America on March 5th to attend the National Convention of the YWCA in the United States. After that she will proceed to London to represent the Japanese Y.W.C.A. at a Conference of National Secretaries of the YWCA under the World's Committee of the Association. En route Miss Kawai plans to spend two weeks in Honolulu seeing something of the Emigration work there.

The National Staff of the Association held a Christmas party at the new National residence of the Association on the Monday evening before Christmas. The guests included the secretaries of the Tokyo and Yokohama Associations.

Dr. Tomo Inouye and Mrs. Taki Shidachi were the guests of honor at a tea given on January 13th. Mrs. Shidachi told of her recent trip to England, France and the United States, and Dr. Inouye gave a report of the Conference of Women Physicians which she recently attended in New York.

Miss Lillian Chambers, who came out last year to be one of the secretaries of the Association in Japan was obliged to return to America on account of ill-health in January. The National Committee regrets very much the necessity which made Miss Chambers' return necessary and hopes that she may be speedily restored to health in America

Miss Haru Asai became the editor of the Association Magazine with the new year. Miss Asai is a graduate of Miss Tsuda's School, has had experience as a high school teacher and as secretary of the Womens Board of Missions of the Presbyterian Church in Japan, and is one of the early members of the YWCA.

Senator Bills of California was entertained at dinner recently to meet several Japanese ladies and talk over the plans that he represents for the Japanese in California. This is one of the points of contact that we are hoping to multiply through the new hostess secretary and her work. With Mr Bills was a young Japanese man who is a recent graduate of the University of California and who is helping in the work of bettering conditions among his people in that State.

TOKYO,

The Commitee for the Survey of the Girls' Schools of Tokyo has commenced work on what promises to be an interesting and certainly a large task. It certainly is a much needed bit of work. This committee will investigate the schools for women in the city of Tokyo, reporting their findings to the Tokyo Student Committee and filing them in proper form for use by the Student Department in its work. When this committee has completed it's task, we hope to know not only the enrollment, academic standing, dormitory accomodations, and the general type of work done in the school but also—and what will be important for our own work in particular, the Christian or non—Christian influences in the school and where they center, the Christian work, if any done in the school or among it's students, and what point of contact the Y.W.C.A. already has or might have thru it's educational and Bible Classes. Along the same line we plan to learn some essentials about the history of the schools, the Christians on the faculty and among the students (so far as this can be learned), and something of the placing of the school's graduates and their later spheres of influence. By this sketchy ennumerating of the main points of the survey, one can easily see how this material will prove very valuable in directing work already opened up with schools, with suggestions as to how to go about establishing work in schools not yet touched, and will also give some guidance as to the schools it is most important to touch first because of the relative influence of the work of their graduates, A small committee has been appointed for the regulation work of the survey but we feel that many people and particularly our committee and board women will be needed to help on some of the more delicate work of the investigation. We trust that the importance of this work to

女子青年界第拾七巻第二號（毎月一回一日發行）
大正九年一月廿八日印刷納本　大正九年二月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

